

栄養サポートチームでは本通信で勉強会の概要をお伝えし、より多くの方々に栄養管理について関心を持っていただきたいと考えております。

今回は、包括的栄養管理のコミュニケーションツールとしてこれまでの勉強会で提唱させていただいてきた「MAGIC-P」の中から、「GFO療法の実際」について、(株)大塚製薬工場の亀井氏より情報提供をしていただきました。

GFO療法

Intestinal maintenance (腸管メンテナンス)

GFOとは

G: グルタミン

アミノ酸の一種で、生体内では最も多いアミノ酸。

F: ファイバー

水溶性食物繊維は腸内細菌により、短鎖脂肪酸に分解されて利用される。

O: オリゴ糖

善玉菌とされているビフィズス菌の食糧となる。



GFOの投与意義と基準

投与意義

1. 免疫増強、筋蛋白崩壊抑制・合成促進
2. 腸管刺激、整腸作用

投与基準*

1. 1週間以上の絶食
2. 高度外傷
3. 急性膵炎
4. 敗血症
5. 熱傷(体表面積の15%以上)
6. MRSA感染症・腸炎
7. 偽膜性腸炎

*: 東口高志、静脈経腸15(2) p33,2000

GFO療法のすすめ

理由その1: グルタミン、ファイバー、オリゴ糖を組み合わせることにより胃から直腸までのすべての粘膜にエネルギーを補給することが可能です。

理由その2: 消化管粘膜の萎縮やそれによる免疫能の減衰を予防することも可能です。

理由その3: 絶食期を余儀なくされる症例であっても投与量の少ないGFOなら投与できる場合があり、長期絶食の害を回避できる可能性が高まります。

投与方法: 1日3pで、腸管メンテナンスに必要な各栄養素が投与できるといわれています。

3月のNST勉強会は、褥瘡対策委員会が主催する褥瘡対策講習会の中で協同で行います。

3月17日(水)17時30分～ 医学部第一臨床講堂です。

褥瘡予防とケアするための処置方法と、栄養管理についての講習会です。

テーマは、「褥瘡の局所治療の実際について」と「褥瘡と栄養管理について」です。

